

びざん

7
月号

JA NEWS 2021 NO.626



表紙写真は枝豆統一部会前川久部会長。いよいよ茶豆風味の新枝豆ブランド「あわっちゃまめ」の販売がスタートしました。「あわっちゃまめ」が全国に親しんでもらえるよう、一層期待が高まります。

現在、部会では生産者約200戸で93.8畝を栽培しています。3年前より共同選別場が稼働したことにより、これまで生産者作業の個別に選別・計量・袋詰め・箱詰めが省力化でき、その分栽培管理や面積拡大に注力できております。また、病害虫防除や雑草対策、泥の跳ね返りによる汚れ

を防ぐため、マルチと防虫ネットを活用した栽培を推奨し、品質の向上にも努めています。

今年の総出荷量は525ト、3億5,700万円の販売目標を掲げています。

前川部会長は「コロナ禍での販売開始となるが、枝豆は夢のある作物。子どもにも人気がある。親しみやすい『あわっちゃまめ』の名前を覚えてもらい、名高いブランドに成長できるように、これからも良味の枝豆を出荷したい。」と意気込んでいます。

ゴボウ販売 順調

北井上支所ごぼう部会の朝田三郎部会長は5月末から出荷を開始しました。

今年は約10年ぶりに高単価で推移しており販売が順調です。肌が白く、やわらかくて香りが良い北井上産のハウスゴボウは、戦前からの長い歴史を誇り、産地をけん引してきました。

まっすぐに伸びる上質なハウスゴボウを栽培するため、播種前にトラクターで130センチほど深耕し、換気にも留意して栽培しています。収穫作業は機械で行うものの重労働のため、近年は高齢化による栽培面積が減少傾向ですが、高品質なハウスゴボウの出荷に努めています。現在5軒で約4畝を栽培しています。

6月末までの出荷で今年産の総出荷量は60ト、目標販売金額は2,000万円を計画しています。

おすすめの食べ方は定番の天ぷら、きんぴらの他、やわらかい特徴を生かして、サツと茹で、らっきよ酢に漬け込み「酢ゴボウ」にするのもこれからの季節に食べやすいことです。手軽なレシピとしては、炊飯器に米と鰹節、ゴボウ、醤油を入れるだけで、香り高い炊き込みご飯にするのもおすすめです。

朝田部会長は「新規参入がなかなか難しい作物ではあるが、今後も現在の栽培面積を維持したい」と話されました。



ハウスみかん圃場巡回・目慣らし会

多良良ハウスみかん部会の生産者9戸は、5月10日に圃場の巡回を行いました。

極早生みかん5カ所とグリーンハウスみかん6カ所の各ハウスにて加温開始の時期や、発育状況、出荷量予測などを確認し、糖度計測のため、サンプルを採取しました。

今年は2月上旬から下旬の気温が平年より高く、昨年より生育が早いそうです。また、糖度は全体的に高く、品質は上々とのこと。

今後の栽培管理としては、灌水管理が課題であり、果実の割れの注意などを呼び掛けました。また、6月4日には果樹選果場にて、目慣らし会を開催しました。

同部会多田稔部会長は、「味には非常に自信がある。コロナの影響を受けず販売できることを祈る。美味しいので、スーパーなどで手に取って、是非、手軽にプチ贅沢してほしい。」と話されました。

今年は極早生みかんは、5月下旬から7月下旬の出荷を予定しています。

◀写真①は圃場巡回の様子。②は目慣らし会を行う生産者と職員。





梅選別
スタート
5/9

佐那河内支所梅部会は、生産者20戸で45畝を栽培しています。今年産も、品質は良好で、出荷も安定しています。品種は主に白花鶯宿と南高梅。6月下旬までの出荷予定で、総出荷量6ト、目標販売金額200万円を計画しています。

果樹選果場 中川俊樹職員は「市場から高品質だと評判で香りも良いので、消費者に美味しい梅酒や梅干しを楽しんでもらえるよう、品質向上に努めたい。」と話しました。



枝豆選別施設稼働
5/9

5月末時点での集荷は、1日平均約1.5トです。出荷のピークは6月中旬頃の予定。

北部営農経済センター 営農課 元川裕文課長は、「昨年度に引き続きコロナ禍での出荷開始となるが、出向く消費宣伝活動ができない状況下で、できるかぎりの販売努力を行うと共に、良質で良味の枝豆を出荷し、消費者を笑顔にしたい。」と話しています。



初夏の風物詩 出荷スタート



すだち選果
スタート
4/12

ハウスすだちの出荷が始まりました。今年は、生産者38人で約5.1畝を栽培しています。今年産の品質は例年並みで、上々。8月中旬まで出荷され、総出荷量は100トを計画しています。

果樹選果場 日開潤課長は、「コロナ禍で飲食店等の需要が低迷しているが、最近はコンビニやチェーン店でもすだちを使用した商品もある。是非、味わって頂き、手軽に初夏の季節感を先取りしてもらいたい。」と話しました。



レンコン出荷
スタート
5/20

川内支所ハウスレンコン部会では、ハウスレンコンの出荷が始まりました。今年は生産者14人で約13畝を栽培しています。出荷の際には水を含んだ不織布に包み、冷蔵輸送してコールドチェーンを徹底しています。

5月23日には、目慣らし会を行い、5月末の2号規格への切り替えを前に品質検査を行いました。出荷は7月中旬まで続き、総出荷量は130ト、販売金額は1億3300万円を予定しています。今年も肌が真っ白で品質は上々。

東部営農経済センター 庄野和也課長は「生産者、市場担当者との連絡を密にし、情報発信を行い自慢のレンコンの有利販売に繋げたい。」と話しました。

5/26 加茂名小学校5年生



あきさかりの苗を植えました。加茂名支所 青壮年部 佐野孝夫さん、原田和彦さんが指導を行いました。

5/26 波野小学校5年生



昨年開催ができなかった田植えが今年再開されました

多家良支所青壮年部は、部員の岩崎政史さんの圃場で徳島市立波野小学校5年生の児童49名を対象に田植え体験学習を実施しました。児童らは、岩崎さん、瀬畑俊夫さん、福高和宏さん、赤坂耕輔さんの指導のもと、あきさかりの苗を植えました。児童たちは、素足で泥を踏む感触に最初は悲鳴をあげていましたが、だんだん慣れてきて真剣な表情で熱心に作業を行っていました。児童たちは、「足が泥から抜けなくなり、歩くことさえ難しかった。毎日食べるお米の育てる苦労を初めて知った。」と話していました。

昨年は緊急事態宣言により学校が臨時休業となっており、恒例の田植えも中止。また他の学校行事の遠足などのあらゆる課外活動に制限がかけられていたため、この日、のびのびと大きな声をあげながら楽しんでいる様子を見て、岩崎さんは「開催できただけで嬉しい。只々、楽しんでもらいたい。」と話されました。

6/7 応神小学校全学年



応神支所 新開英実さんの水田で、全校生徒が交代制で田植えをしました。

5/25 宮井小学校5年生



多家良支所青壮年部 瀬畑俊夫さん、坂口太一さん、福高和宏さん、武内雅弘さんが指導を行いました。

コロナ禍でも子どもたちに楽しみを



横10.6m×高さ8mの安全性の高いエアスクリーンが使用されました

J A共済連とくしまは、コロナ禍における子育て支援の一環として、小学生以下の子どもを持つ家庭を対象に家族で楽しんでいただくため、5月21～23日の3日間でファミリードライブインシアターをあすたむらんど徳島にて開催しました。1日あたり70組を定員とし、多数の応募がありました。参加していただいた家族には、当JAのしいたけの菌床ブロック、すだちの加工品のプレゼントが配布されました。

菌床ブロックは、家庭でも育てやすく、食育のためにとの期待が込められています。JA共済連とくしま担当者は、「今後も組合員の皆様や地域の住民の子育て支援に様々な形で寄与していきたい。」と話しました。



配布された菌床しいたけセット

投資信託 リモート研修会

当JAでは、6月1日、2日の両日、投資信託担当者16名を対象に商品の勉強会を開催しました。商品知識向上を目的として、運用会社6社よりオンラインで講師を招きました。中には、最高投資責任者（CIO）自らが講師となる会社もあり、貴重な機会となりました。

今回の勉強会では、当JAで販売している投資信託すべての商品の説明を受けました。これまで個別の商品勉強会は開催があったものの、全商品対象の勉強会は初めての試みであり、より一層、知識を深めることができました。商品や投資信託の必要性、マーケット情報について説明を受け、受講者からは非常に参考になったと好評でした。講習を受けた徳島支所木村勇介トレーナーは「今回の講習で得た知識を活用し、今後お客様の資産を守るお手伝いをしていきたい。」と話しました。



四国放送ラジオ「となりのラジオ」 松茂直売所から中継



松茂直売所黒田直美店長は5月10日に放送された、「となりのラジオ（四国放送ラジオ）」に出演し、直売所の紹介をしました。

JA共済連徳島が主催の「JA直売所わくわくスタンプラリー」の開催期間中、四国放送ラジオのラジオカー「らじまる・おもぞう号」で、アナウンサーが各直売所に訪問し、番組内にて中継レポートが生放送されます。

今回は、同ラジオ局の森本真司アナウンサーが訪問されました。

黒田店長は、実際に森本アナウンサーに新玉ねぎとトマトのサラダを試食してもらい、産直ならではの旬の新鮮な野菜をアピールしました。

「JA直売所わくわくスタンプラリー」は、県内の17ヶ所の各直売所にて、500円以上お買い上げの方に応募シールを1枚配布し、必要枚数のシールを集めて応募するとお米や地元特産物が抽選でプレゼントされるキャンペーンです。（期間は7月31日まで。秋にも開催予定）

応募冊子は各直売所にて無料配布されていますので、是非ご参加ください。



四国放送ラジオは
AM1269
FM93MHz
『となりのラジオ』
の放送は月～金
13:20～16:30

コロナ禍 だからこそ、 きめ細やかな 推進活動

不動農機サービスマスターでは、例年行っている、農業機械等の展示会等がコロナウイルス

感染拡大の影響から、昨年より実施が困難になっている状況を受け、よりきめ細やかな訪問活動の展開を心がけています。

大和龍平職員は、5月末に加茂名支所管内の生産者の大西啓太さんを訪問しました。

昨年に比べ大西さんは、栽培面積を1畝拡大したことで、今後さらなる作業効率の向上が課題となっていることから、トラクターの作業時間の短縮と、暑さや寒さをしのぎ、体力維持を図りたいという要望のもと、大和職員は、キャビン付きの50馬力のトラクターの推進を行いました。その他、将来的に現状の枝豆の動力脱莢機から自動脱莢機の更新を検討のため、現状の作業等の聞き取りを行い、資料を用意の上、価格や性能を案内し、相談に応じました。

大和職員は、「作業の方法や、どんなことを重要視しているかは、個人によって全く違います。同じ機械でも、使用者の用途や使い方によっては、不便であると感じる方もいらっしゃると思います。そのため、機械の知識はもちろんのこと、普段から各生産者の作業方法をしっかり把握しておかないと、適正な推進はできません。何より聞き取りが一番重要です。いろんな情報を組み合わせ、パズルを組み合わせるように何が最適かを一緒に考えています。農業は『体が資本』です。機械を導入してくださることで、生産者の方々の作業時間効率化、体力維持、農業所得向上が図れるように、一人一人の現状を捉え、ベストなご提案ができるように努めていきたいです。」と話しました。



連載 vol.8

“ほなけんがんばるんじょ”
「生産者の方々が先生」
北部営農経済センター
梶原 景子 指導員



当JAでは営農指導兼経済渉外員は、「出向く営業体制」を強化していますが、管内で一番大きな北部営農経済センター内のミニ資材店舗にて梶原さんは、配置型指導員として常駐し、生産者の方々の相談に対応しています。

ときから親切にいろいろ教えてもらいました。」

現在、プライベートでは、3児の母として育児と仕事の両立をしており、また、趣味としては、家庭菜園もおこなっているそうです。

また、産休中の2019年10月に台風による豪雨災害のニュースを見て、全国で異常気象による災害が深刻化してきたことから、環境問題にも興味を持ち始めたそうです。

「家庭内でできる小さなことですが、環境にやさしい生活を心がけ実践しています。地球温暖化が及ぼす作物への影響はこれからますます深刻化してくると思います。今後の課題は、『気候変動に対応した農業』の知識を深めることです。」

そのジャンルによって、自分が信頼できる人に相談し、ネットワークを駆使して情報や知識を蓄えるそうです。常に店舗に駐在しているわけではなく、やはり実際に現場に行くこともあります。「現場を見ないとわからないこともあります。今までたくさん現場を見て経験したことが今の役に立っています。」



▲北部営農経済センターミニ資材店舗にて、生産者 大寺勝久さんと会話する梶原指導員。

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。5月24日徳島市で高齢者向け新型コロナウイルスワクチンの個別接種が始まったのに続き、徳島県はアスティとくしま（徳島市）で新型コロナウイルスワクチンの高齢者向け大規模集団接種を6月5日からまず徳島市の高齢者を対象に始め、市が確保する米ファイザー製ワクチンを使用すると発表しました。また他の市町村から希望があれば徳島市の接種と並行して受け入れ、県が確保するモデルナ製が各市町村のファイザー製を接種するとしています。

これでいよいよ医療従事者に続いて、高齢者のワクチン接種が始まったわけですが、主に使われているファイザー製のワクチン（商品名：コミナティ）について詳しく見て行きましょう。実はこのワクチンは大変慎重な取り扱いを要するためいろいろな混乱が生じていますが、特に「超低温保存」と「震動」に関してが重要です。詳細な実際の取り扱いについては省略しますが、何故そのようなことが必要かに関して説明したいと思います。

ファイザー製ワクチンは、「mRNA ワクチン」というタイプで、人類史上初めて使用されるものです。一般にワクチンというのは、弱毒化した病原体をあらかじめ体の中に入れることで免疫をつけさせ、本物のウイルスが入ってきても退治できるようにしておこうという戦略で接種されますが、ファイザー製のワクチンは、病原体遺伝子の一部そのものを体に入れることが大きく異なります。つまり新型コロナウイルスの遺伝情報を人間の細胞の中に取り込んで、私達の細胞からコロナウイルスと同じ突起を生やさせ、それを異物として認識した私達の検疫系が抗体を産生するという戦略です。ウイルスとは「遺伝情報を包んだ粒子」ですが、大きく分けるとDNAを持っていてそれをタンパク質で包んでいるDNA型ウイルスとRNAを持っていてそれをタンパク質で包んでいるRNA型ウイルスがあります。さらにその周囲をエンベロープと呼ばれる脂質の膜で覆っているウイルスもありますが、コロナウイルスはRNA型でエンベロープを持ったタイプです。エンベロープは脂質でできていますので、アルコールにより破戒されますのでエタノール消毒が効きます。

ウイルスは遺伝子という設計図は持っていますが、工場（リボソーム）は持っていません。そのためウイルスは自分自身では増殖できないので生物に感染してその細胞に入り込み、その中にあるリボソームで増殖します。コロナウイルスの遺伝情報は、「1本鎖プラス鎖RNA」と呼ばれます。「プラス鎖」とは、mRNA（伝令RNA）を意味し、即ち設計図として働くということです。同じ遺伝情報でもDNAは「2重らせん構造」になっていて、2つのパーツが組になっているものですから構造的にも強固だし、仮に一部が壊れても残った情報から修復することも可能です。ところがRNAは1本しか鎖がないので、切れたらそれで一巻の終わりです。ファイザー製のワクチンは、この弱くて壊れやすい新型コロナウイルスのRNAの一部分を「油のカプセル」の中に封じ込め、人間の細胞内に届けようとするものなのです。そのため、「超低温」で保存すれば何とか原型を保つことができますが、常温に晒されると短時間で壊れてしまいますし、「震動」でも簡単に壊れてしまいます。ちなみにマイナス70℃保存の根拠は、ドライアイスの昇華点を意識したものであり、ウイルス側から決められたものではありません。持ち運びに便利なドライアイスに合わせたものなんですね。そのため最近は超低温保存の設定も緩められています。

以上から、在宅療養患者等に対して在宅で1件ずつ接種を行う場合には「医療機関においてワクチンをバイアルから注射器に充填し、2～30℃で管理し、揺らさないように慎重に取り扱うとともに直接日光および紫外線が当たらないように留意し、希釈後6時間以内に使用すること」と定められています。ファイザー製のワクチンは1瓶が6人分ですから、クリニックで注射器に移してから6時間以内に6人のお家を廻って接種することは、とても大変です。

お知らせ

経済産業省
中小企業庁

中小法人・個人事業者のための
緊急事態措置・まん延防止等重点措置の影響緩和

月次支援金

申請期間

4月分/5月分：2021年6月16日
～8月15日
6月分：2021年7月1日
～8月31日

詳しくは、月次支援金ホームページをご参照ください。



月次支援金

相談窓口

フリー
ダイヤル

0120-211-240

受付時間 8:30～19:00 土日・祝日含む全日

IP電話
専用回線

03-6629-0479

無料法律相談
島田清弁護士

通常通り開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合もございます。

日時 第3土曜日 9:00～12:00

金融共済部へ事前に予約が必要

申込先 ☎ 088-622-8003

場所 本所1階金融相談室

無料税務相談
賀土延啓事務所

下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございます。

日時 7月13日(火)、20日(火)、27日(火)
9:30～15:00

申込先 総務部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-6335

場所 本所1階ローンセンター

理事会だより（令和3年5月31日）

協議事項

- (1) 本所西側駐車場の取得について
- (2) 第52年度通常総代会資料の提出について
- (3) 令和3年度不稼働・遊休資産の処分方針について
- (4) 信用の供与等の限度額について
- (5) FinTech企業等との連携及び協働に係る方針の変更について
- (6) 不良債権の処理に関する方針について
- (7) 出資口数の一部減口について
- (8) 3億円超の信用の供与について
- (9) その他

報告事項

- (1) 令和2年度決算における独立監査人の監査報告書について
- (2) 内部監査の品質に関する内部評価報告書について
- (3) 資産査定結果について
- (4) 債権回収について
- (5) 店舗部門別損益について
- (6) 第52年度監事監査報告書について
- (7) 令和2年度末監事監査における監査意見書について
- (8) その他